

○第34回かび毒・自然毒等専門調査会

日時：平成27年2月4日（水）10：00～11：34

議事概要：

（1）平成26年度食品安全委員会が自ら行う食品健康影響評価の案件候補（かび毒・自然毒等関連）について

- ・事務局から「平成26年度食品安全委員会が自ら行う食品健康影響評価の案件候補（かび毒・自然毒等関連）について」に基づき説明が行われた。
- ・小西専門委員よりフモニシンの概要と日本における汚染実態及び暴露量推定について、渡辺専門委員より *Aspergillus niger* によるフモニシンB2産生について説明が行われた。
- ・事務局からフモニシンに関する知見の状況について説明が行われた。
- ・平成26年度食品安全委員会が自ら行う食品健康影響評価の案件としてフモニシンが決定された場合、次回以降の専門調査会で審議することとされた。

（2）その他

- ・厚生労働省における食品中のオクラトキシンAの規格基準の設定に関する状況について、事務局から報告した。
- ・食品安全委員会における「麻痺性貝毒」ファクトシートの公表について、事務局から報告した。

*フモニシン：主に *Fusarium* 属が産生するかび毒。

世界各地のトウモロコシから高濃度、高頻度に検出される。

ウマで大脳白質脳症、ブタで肺水腫といった臨床症状を示し、ヒトでは神経管閉鎖障害との関係が示唆されている。